■ 23区長コメント ■

足立区長　近藤 やよい 氏

メッセで産学連携促進

足立区は近年、新線の開業で交通の利便性が格段に向上し、人口の増加が続いています。また、2012年4月の東京電機大学千住キャンパスの開設で、区内には短期間に五つの大学が進出し、産学連携の機運が高まっています。区はこの機会を最大限活用し、地域の絆や連帯感を醸成することで、「誰もが安心して住み続けられる街」の実現に、大きく一歩踏み出しました。

地域のつながり、この源泉は産業にあります。匠の技を繰り出す伝統工芸の職人、製品開発に意欲的に取り組む二代目社長、新規事業立ち上げに挑む若者ら、地域では多くの産業人が活躍しています。本区はこれら事業者の支援と産学連携の一層の促進を目的に「あだちメッセ」（14年1月17日、18日に北千住丸井11階）を開催します。よりパワーアップした内容で、前回以上の来場者獲得を目指します！。

荒川区長　西川 太一郎 氏

産業施策 多面的に展開

荒川区は住商工が混在する人情味あふれる心温かなものづくりの街として発展してきました。近年の社会経済情勢の激しい変化にあっても、洗練された技術や伝統は脈々と受け継がれています。私は、こうした豊かな地域資源や産業集積のポテンシャルを最大限に引き出して製造業を活性化し、地域経済発展の大きな原動力の一つにしたいと考えています。

2013年度は、これまでの「MACC（モノづくり荒川産業クラスター）」政策に加え、重点施策として新事業・新創業を掘り起こすビジネスプランコンテストの実施とその事業化を支援します。また、戸別訪問による製造業の実態調査を実施し、区の支援事業への的確なつなぎや新たな施策展開を図ってまいります。今後も多面的な産業振興施策を展開し、誰もが幸福を実感できる「幸福実感都市　あらかわ」の実現を目指します。

杉並区長　田中 良 氏

商・工・農横断で事業展開

杉並区は2012年に区制施行80周年を迎えました。今日まで良好な住宅都市として発展を続け、現在は人口も54万人を数えるに至っています。最近の区内産業の状況をみると、事業所数や従業員数の減少傾向が続く一方、情報通信、教育、医療、福祉などの分野で事業所数は増加傾向にあります。

こうした中、4月に「産業振興計画」を改定し、創業や就労支援、挑戦意欲のある商店街や事業者への支援、区公式アニメキャラクター「なみすけ」の活用により、区内の各地域の特性を活かしながら、まちづくりと連動して産業振興を図ることといたしました。地域経済の状況は先行き不透明ではありますが、商業・工業・農業といった枠組みを超えた横のつながりを意識した事業を展開し、住環境と調和した産業の振興を推進し、区民生活の向上と地域社会の発展に努めます。

世田谷区長　保坂 展人 氏

自然エネで新ビジネス

世田谷区は人口約90万人の住宅都市であり、にぎやかで地域に親しまれる商店街が数多くあります。またモノづくり産業や農業にも多くの人が従事しています。若い人の起業を支援する「ものづくり学校」からは、若きチャレンジャーたちが旅立っています。

現在、本区では自然エネルギーの活用を促進するさまざまな取り組みを行っていますが、今後の電力自由化をビジネスチャンスと捉え、さまざまな事業者・団体・研究者が電力の一大消費地である世田谷で新たなビジネスモデルをつくれないかと活発な動きをみせています。

また区内に3万5000戸ある空き家・空き室を地域の資源として有効活用する取り組みを進めています。地域住民による地域のための公共的サービスが空き家などを活用して行われることで、地域の活性化や新たな雇用の創出にもつながるものと考えています。

葛飾区長　青木 克徳 氏

下町工業集積地の代表格

「あらゆる製品や部品の製造・加工が全て葛飾区内で完結する」。これこそが「ものづくりのまち葛飾」の最大のセールスポイントです。葛飾区は、都内23区で第3位の工場数を誇っている〝下町工業集積地〟の代表格です。

また、業種の豊富なことも特徴の一つです。これらの区内企業の高い技術力を生かした葛飾ならではのブランド力を高め、その魅力を広くアピールしています。

これからも、2013年4月に葛飾キャンパスを開設した東京理科大学との産学公連携事業の推進や、区外会場での産業見本市の開催などを通じ、新たな技術、事業の創出や新規顧客の開拓の支援に積極的に取り組んでいきます。

そして、「ものづくりのまち葛飾」を広く全国に発信していきながら、産業界の方々と協働して、区内産業の一層の発展に努めていきます。

板橋区長　坂本 健 氏

光学の国際会議 来年開催

製造品出荷額等23区1位（2010年工業統計調査）の産業都市である板橋区には、光学・精密機器や印刷などの企業が多数立地しています。地域の強みを生かす魅力創造発信都市を実現するには産業戦略が要です。

光学産業振興では日本光学会光設計研究グループと連携し、光学設計・製造に関わる国際会議を14年2月に区内で開催します。4月に区内企業と区の会議体を発足し、海外研究者との連携を視野に入れて受け入れ体制を整えました。理工系大学・研究機関との提携も重視し、理化学研究所と区内企業との連携から新製品・新技術が生まれています。7月に光学研究で有名な宇都宮大学とも協定を結びました。

空洞化対策の産業立地促進計画に基づき、13年度から設備投資助成や事業継続計画（BCP）策定支援を実施中であり、企業の立地継続や新規立地を促します。

豊島区長　高野 之夫 氏

際だつ個性 池袋副都心

池袋副都心は大きなチャンスを迎えています。造幣局の移転をはじめとするさまざまなプロジェクトが進展するとともに、2015年初めには新庁舎が完成します。さらに、現庁舎地と周辺エリアのまちづくりが新たにスタートします。

駅から街中へと人の流れを生み出す交通戦略、にぎわいの中を安心して歩けるストリートなど、新庁舎と現庁舎をダンベルの両端とする新たな南北軸を形成します。

また、物語性があるみどりや公園のつながり、春・夏・秋・冬を感じることができるまちとすることで、21世紀の東京の中で、際だった個性を発揮する池袋副都心が、間もなくその姿を現します。

これらのプロジェクトの推進に、持てる力のすべてを傾注してまいりますので、人と環境にやさしい「四季を感じられるまち」池袋に、ぜひご期待ください。

渋谷区長　桑原 敏武 氏

安全・安心へ防災力向上

区民生活の前提は安全です。渋谷区では、東日本大震災の教訓を踏まえ、安全・安心の街として、地域防災力の向上を目指します。区役所総合庁舎に関しては、区議会にゆだね、耐震化、建て替えを検討しています。

他方、事業者と協力し、老朽化した都市を更新し、魅力ある生活文化都市の再生が必要です。駅周辺の各拠点施設と連携して、歩行者ネットワークを強化し、にぎわいと回遊のある安全・安心で歩いて楽しい街づくりを目指してまいります。

また、「子供を産み、育て、預けやすく、働きやすいまち」を基本理念に子育て支援を行っており、待機児童ゼロを目指し、認定こども園4園の開設など保育施設の定員を大幅に増やして良質な保育、幼児教育を提供してまいります。

高齢者についても、さらに住み続けられるように、施策を充実してまいります。

江戸川区長　多田 正見 氏

世界に誇れるものづくり

江戸川区には、宇宙ロケットや大型プラントの部品製造、特殊ブラスト加工、日本初のプラモデルの金型製造、さらに「東京スカイツリー」のカーテンウオール製作など、優れた技術を持った中小企業が数多くあります。これらの企業をはじめとする区内企業は、高品質・高性能の〝MADE IN JAPAN〟ブランドの立役者であり、まさに区民の誇りといえるでしょう。

本区では経済・産業活動を「地域の活力の源泉」と位置付け、区制度融資に23区唯一の信用保証料全額補助と利子補給を実施し、大学などとの連携強化によって新製品や新技術の開発を支援しています。さらに、各種展示会への出展や知的財産権・ISO認証などの取得、技術継承に係る経費助成などの施策を拡充し、地域産業界と力を合わせて高い技術力と品質を追求し、「世界に誇れるものづくり」を築いていきます。

練馬区長　志村 豊志郎 氏

振興拠点 来年度オープン

現在、2014年度のオープンを目指して「練馬区立区民・産業プラザ」の整備を進めています。本施設には区内産業振興の中核的な拠点として練馬産業振興センターを設置します。

特に区内事業者の大半を占める小規模事業所の支援のため、相談などをワンストップで受け止め、相談者のニーズに的確に対応できるようにビジネスマネジャーによる「ビジネスサポート」の仕組みを構築します。

また、事業者が商品の発表会など多様な産業イベントを実施できるコーナーや研修室を備えるとともに、タッチパネルやデジタルサイネージなどで産業・観光情報を提供するコーナーも開設します。

本施設の整備を契機に、練馬区産業振興公社と連携し、区の特色であるアニメーション、農業などを含めた区内産業の一層の振興、地域経済の活性化に努めます。

北区長　花川 興惣太 氏

若手経営者に交流機会

北区の5年後10年後の産業振興を考えますと、若手経営者への期待は大きなものがあります。区としては、情報交換や勉強会、時には飲食を伴う交流ができる機会を提供したいと考えています。若手経営者の皆さんには、是非とも果敢にチャレンジをしてほしいです。

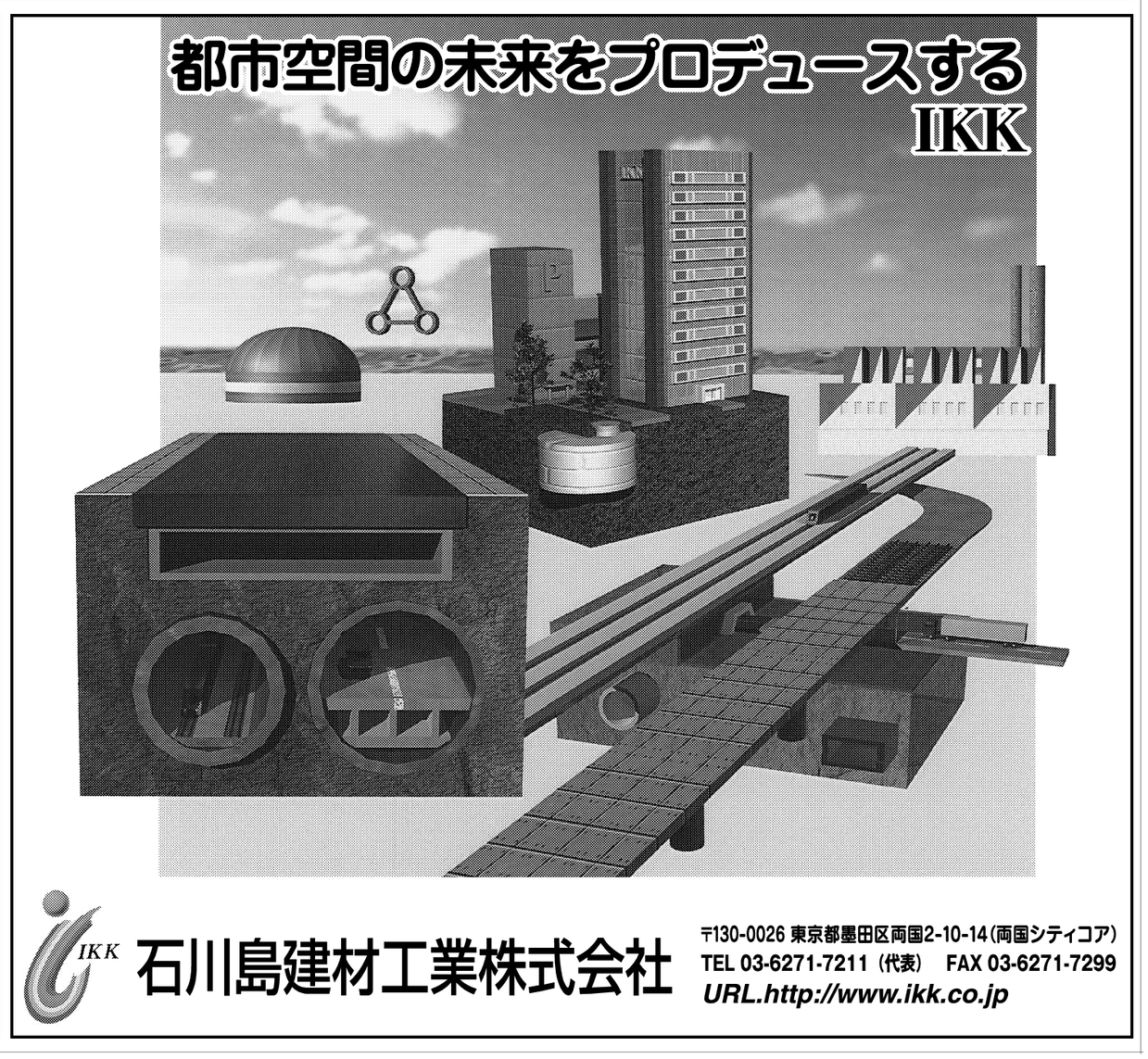
産業振興策では、ものづくりについては経験豊富な技術相談員と企業OBの販路拡大コーディネーターを配置し、技術力はあっても営業力が不足している中小企業のお手伝いをしています。また、産業見本市への出展や知的財産の取得について助成策を講じています。さらに、医療現場ともものづくり企業をつなげ、成長産業である医療分野への進出を応援したいと考えています。

今後も経営者の皆さんや産業団体の方々と意見交換を重ね、地域産業の活性化に向け取り組んでまいります。

中野区長　田中 大輔 氏

ICT・生活産業に重点

中野区は2012年に策定した「中野区産業振興ビジョン」で、情報通信技術（ICT）・コンテンツ、ライフサポート関連の両産業を重点支援することを打ち出しました。例えばICT・コンテンツ産業では補助金制度を創設しました。両産業を振興して区内の経済を活性化し、雇用の増加につなげます。

警察大学校跡地の再開発地区「四季の都市（まち）」には大手企業の本社や大学が進出しています。企業の移転で区内企業が刺激を受け、大学の集積が人材育成につながると期待しています。シーズや知的資産を有する大学と企業をうまく結びつけることが重要になると考えています。

ここには産業振興拠点が開設されます。ICT・コンテンツに関する情報の収集やデータベースの構築、事業者同士のマッチング機能を持たせることにより、こうした産業を支援します。